

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 3月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	0175800200		
法人名	有限会社 福音の家		
事業所名	グループホーム 福音の家		
所在地	空知郡南幌町元町4丁目3番14号 (電 話) 011-378-1078		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年3月12日	評価確定日	平成22年4月25日

【情報提供票より】 (平成22年2月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	9 人, 非常勤 0人, 常勤換算 8.45 人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル	造り
	2階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費16,000円 暖房費(10~4月) 7,000円	
敷 金	有 () (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要 (2月 12日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護 1	3 名	要介護 2	2 名		
要介護 3	1 名	要介護 4	1 名		
要介護 5	2 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 77.6 歳	最低	48 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みどりの医院、町立長沼病院、野幌歯科、町立南幌病院 他
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

南幌町の南幌高校に程近い住宅地に位置し、民家改造型の家庭的な雰囲気を大切に、キリスト教の牧師でもある施設長のもと、誰にでも開かれたホームとなっています。ホームでは穏やかな時間の中、利用者同士が手を取り合ってお互いの健康を喜び、ねぎらいながら利用者同士支えあって共に暮らす絆を深めています。利用者が能力に応じた社会参加をすることで、生きがいや楽しみにつながるの思いから、地域との交流や協力関係の構築に力を入れています。利用者の安全確保についても様々な状況を想定し、施設長の阪神大震災でのボランティア活動を教訓に、利用者の命を守るために何が必要かを検討し、話し合いと訓練など継続的な取り組みを行なっています。

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>前回の改善項目であった地域密着型サービスとしての理念について、今までホームが地域との関わりや関係作りの中で大切にしてきたことを職員と共に考え、介護理念に加えています。運営推進会議でも介護理念の変更を伝え、参加者から意見をいただいています。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>内部研修で評価の意義や活用方法について話し合い、前回評価の結果を踏まえ、職員全員が各自で取り組んでいます。各職員の行なった自己評価を持ち寄り、ホーム全体の評価として取りまとめる過程で、現在できていることと、今後取り組みたいことなどについて考えています。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、行事報告などや利用者の生活状況などを伝え、参加者からの意見をいただいています。南幌町保健福祉課や民生委員、老人クラブや近隣住民、利用者家族などが参加し、2ヵ月ごとに実施しています。様々な立場からの意見をいただくことでホームの運営に活かすとともに、地域との関係作りの場としても活用しており、利用者の地域への参加の場を広げたり、災害時などの協力関係作りなどの機会としています。</p>
重点項目 ②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>利用者の生活状況のこまめな報告などを通じて、家族との信頼関係作りを行なっています。利用者の家族の訪問が難しい場合は、ホーム側から家族のもとに向いたり、利用者の穏やかな生活のための協力関係作りを大切にしています。家族からの意見や要望があった場合は、職員で検討を行なって運営に活かしています。</p>
重点項目 ③	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>地域に根ざしたホームを目指し、職員が地域の学校などの役員活動にも積極的に参加し、ホームの理解を得る足がかりとしています。近隣の学校の行事への参加や、学校行事への祝電や実習生の受け入れなどの付き合いを行なっています。利用者が町内会行事に参加したり、日常的な挨拶などを通じて交流しており、地域住民や関係機関へ災害時等の協力についてもお願いしています。</p>
重点項目 ④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームでは基本理念と介護理念を定めています。昨年、今まで行なってきた地域との関係作りを理念に取り入れるため、職員が話し合い、今までの取り組みに沿う言葉を選び介護理念に加えています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全員が同じ方向を向いて統一したケアを行なうため、職員の採用時に理念とそこに込められた思いについて、十分に話し合いを行なっています。毎日、理念を唱和し、ケアの中でどのように活かしていくかを考え、実践しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームでは、利用者の社会参加が生活の質の向上に役立つとして、地域との関係作りを推進しています。町内会の加入や、学校等を含めた地域資源に積極的に係わり、利用者の参加の場や地域の理解を得る機会としています。災害時の協力も呼びかけています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、内部研修で意義等について話し合い、過年度の評価結果を参考にしながら、職員が各自で取り組んでいます。結果を取りまとめ、話し合いをしながら、全体として「できている部分」と「これから取り組みたい部分」などについて話し合い、改善につなげています。		

南幌町 グループホーム福音の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月に1回実施し、行政や近隣住民、老人クラブ、家族等が参加しています。外部評価の結果やホームの状況について話し合っています。今後は、地域の協力や利用者の社会参加の場を広げるため、多方面に参加者を呼びかける予定があります。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	南幌町の担当者とは、適切な運営に必要な情報のやり取りだけではなく、利用者や地域の情報を伝え、助言をいただいています。利用者の生活を豊かにする社会資源の活用相談など、日常的に連携が図れるように関係作りを行なっています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時の報告だけでなく、訪問することが困難な家族の元を訪問する等、家族との関係作りを大切に、状況に応じた報告をしています。毎月、生活の様子を伝える手紙やかわら版の送付も行ない、きめ細かな対応を行なっています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活状況、医療の受診記録、写真などを活用し、家族に利用者の生活の様子を判りやすく伝え、家族の思いや意向を引き出すようにしています。ホームの情報の開示の姿勢を伝えるとともに、ホームと外部の相談窓口を提示しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者はカウンセラーの資格があり、職員が長く働けるよう、精神的な支援や職場環境などについても話し合い、離職を防いでいます。新入職員の受け入れなど、利用者にとって環境が変わる場合にも、利用者の負担にならないようにチームで目配りし、普段通りの生活ができるようにしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での勉強会を実施すると共に、勤務年数などに応じた外部研修の案内を行ない、積極的な参加を呼び掛けています。学んだことをホームで活かす場を作ることで、職員の自発的な意欲を喚起し資格取得へも繋げています。職員同士が学びあい、実践の場で職員が気づき、考えることを大切にしています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や空知地域の交流組織の「そらねっと」などのネットワークを活用し、管理者や職員が研修などを通じて同業者との交流を図っています。利用者に関連のあるテーマを学び、同業者の取り組みからホームでどのように活用していくかを検討するなど、実践的に取り組んでいます。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始の時は、関係機関や職員など話し合いを十分に重ねています。利用者が安心して利用開始できるよう、何度も家庭を訪問したり、利用者や家族の希望、生活歴などを丹念に聞き、ホームへの理解も深めていただいています。利用初期には、家族等と連携を図りながら支援を行なっています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が職員にねぎらいの言葉を掛けていただいたり、職員の身だしなみを整えていただくなど、職員と利用者がそれぞれの信頼関係を築きながら、共に生活をしています。食事を一緒に作ったり、助言をいただいたり利用者の生活歴や興味、力量に合わせてお互いに支えあっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでは、日々の生活の中での言葉やしぐさなどを通じて得られた職員の気付きを共有し、より良いケアの実現に向けて検討を行っています。意志をあらわすことが困難な利用者も笑顔が見られるように、心と心のコミュニケーションを心がけています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成は、利用者の暮らし方の継続や希望、社会とのつながりを盛り込み、職員全員が参加して行なっています。生活歴やセンター方式、課題分析標準項目に沿ったアセスメントを活用し、職員の気付きを話し合い、利用者・家族の希望を取り入れて状況に合った介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況に応じ、介護計画に対する2ヵ月又は3ヵ月ごとのモニタリングを実施しています。利用者の変化を捉えた際には、職員が検討すると共に、利用者の24時間の様子を15分毎に記録し、医師のアドバイスをいただくなど、状況を正確に伝える取り組みを行ない、関係機関と連携を図りながら、適切な介護計画の見直しを行なっています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院中の家族や遠方の知人への訪問に同行したり、家族のホーム訪問の際の送迎など、利用者と家族の希望に応じて行なっています。自由参加で礼拝に出席したり、希望によっては、ホームでのお葬式を行なうなどの支援を行なっています。		

南幌町 グループホーム福音の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診を支援しています。受診時の付き添いを行ない、受診記録や日ごとの健康の記録も合わせて家族に説明しています。気になることは、かかりつけ医に電話で相談をして、適切な受診に結び付けています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは、ターミナルケアの説明書を準備し、同意をいただいています。利用者と利用者を支える家族が安心して生活できるように、話し合いを行なっています。職員の介護力の向上や心理的な支援も視野に入れ、医療機関などとの協力関係作りも含めて方針の共有を図っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを尊重し、トイレ誘導や排便の際も周りに気づかれないような工夫と、トイレの出入りのしやすさなどを工夫しています。個人記録等の取り扱いのルールを作り、適切に保管し、個人情報の利用も必要最小限にしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事前に利用者や家族から収集した生活歴や要望を参考に、本人らしい暮らし方を検討しています。日々のケアの中で収集した希望や嗜好品についてなど、一人ひとりの生活のペースなどを大切にして生活支援を行なっています。		

南幌町 グループホーム福音の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が料理の講習会に参加するなど、美味しい食事の提供に力を入れています。利用者が食べたい献立を中心に旬や行事を意識しながら、利用者とともに調理するなど、生活の一部として一緒に行なっています。また外食を取り入れたりしながら変化を付けています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回程度を目処に入浴しています。一人で入浴できる利用者は、安全に配慮しながら、自由に入浴できるよう支援を行なっています。拒む場合は、無理強いせず言葉かけの工夫や場面を変えてみるなど、柔軟に対応しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの中だけでなく、地域の中での役割や気晴らしも大切にしています。利用者が町内会行事で役割を担ったり、参加を通じて社会参加を行ない、図書館へ出かけたり、除雪や菜園での収穫などを通じて、近隣住民の方々との交流を行なうなど、幅広く支援を行なっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物、外食などの機会をつくり戸外に出かけるようにしています。閉じこもりがちにならないよう、ホームの中庭に咲いた花を摘んだり、外気に当たったりと気分転換ができるように促しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は鍵をかけていません。外出の意向があった場合や利用者の外出の予兆を察知した場合は、一緒に出かけたり、ドライブしたりしています。利用者の見守りを地域住民の方々や警察署にもお願いしています。		

南幌町 グループホーム福音の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	全職員が避難訓練に主体的に取り組み、火災だけではなく、地震等の様々な状況を想定して話し合いを行なっています。阪神大震災を教訓に3日分の食品やコンロなどを備蓄し、利用者の生命を守ることを第一に毎月避難訓練を行ない、地域の協力体制を築いています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的な献立を中心に、一人ひとりの飲み込む力などに応じた形態で栄養摂取を支援しています。医師や栄養士から献立のアドバイスをいただき、利用者の体重や血液検査の結果も合わせて検討しています。食事や水分摂取量を記録し、健康管理につなげています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は懐かしい雰囲気の家改造型の良さを活かし、家庭的な雰囲気となっています。トレーニングマシンや大きな画面でDVDを鑑賞したり、利用者同士がソファで語りつたりと思いつきに過ごせるよう工夫しています。居間や廊下で鉢植えの花を多く栽培し、快適な温度や湿度にも配慮しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の馴染みの家具や生活用品が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっています。利用者に好きなものを聞きながら、職員と一緒に飾りをしながら、居心地の良い空間になるように支援を行なっています。		

※ は、重点項目。